

# 養護教諭養成課程の学外実習に関する研究

## 第1報 臨床実習の現状分析

愛知教育大学養護教育教室 松浦 鎧治  
天野 敦子  
堀内 久美子

(昭和62年12月25日受理)

### 1. はじめに

養護教諭養成課程の独自の授業科目の一つに臨床実習がある。これは、養護教諭として必要な能力を養うために医療施設で行われる学外実習である。筆者らは養護教諭養成課程の教官として、臨床実習の企画、運営、学生指導にあたっているが、実習内容と学生が身につけるべき能力との関連性を追求し、先行研究<sup>1)2)</sup>や他大学での実施状況等も参考にしながら実習の改善を試みてきた。他大学と比較すると、本学養護教諭養成課程の臨床実習は実習施設の性格に特色がある。すなわち、医療機関2施設の他に保健機関1施設を加えて実施していることである。保健機関である愛知県総合保健センターの機能は、健康診断と保健指導、機能訓練(視機能・言語・聴覚等)が重点でありさらに専門職の研修(精神衛生)も行っているなど養護教諭の職務との関連性がきわめて強い。本稿では、学生が臨床実習でどのような疾患や処置・看護について学んでいるか、全体として何を学んでいるかを調査し、その結果を考察することにより養護教諭養成における臨床実習の意義を確認したい。

### 2. 養護教諭養成における臨床実習の位置づけ

養護教諭は、「①看護・臨床医学、②健康管理、③教育の3分野における能力を有する専門職」であるとされており<sup>3)</sup>、看護・臨床医学の知識・技術は養護教諭にとって不可欠である。現行の教育職員免許法でも、養護教諭1級免許取得のために養護専門科目を40単位以上と規定し、そのうち看護学(臨床実習を含む)8単位を必修としている。

本学では免許基準を満たすように卒業要件を定めているが、養護教諭養成課程のカリキュラムでは、養護専門科目46単位の内4単位を臨床実習にあてている。本学の他の教員養成課程と同様に、主実習(養護教諭養成課程の学生の場合は養護実習、小学校4週間)・副実習(中学校保健、2週間)を行っているが、その上臨床実習も必修であるため、学生の負担は大きい。このことは指導にあたる教官にもあてはまることである。しかし、児童・生徒の生命を守る仕事にたずさわるためには欠かせない実習である。

### 3. 実習の概要

#### (1) 実習の目的

本課程の臨床実習実施要項では「学内において学習した知識、技術を臨床場面で経験し応用して、養護教諭としての職務遂行のために必要な能力を養う。」と定めている。ただし、看護技術等の習熟よりはむしろ、疾患の診断過程や保健指導の理解など学校保健活動との関連を考えることが主な目的となろう。

#### (2) 実習施設および実習の目標

実習施設としては、愛知県総合保健センター(以下センターと略す)、愛知県職員病院(以下職員病院と略す)およびみなみ子ども診療所(以下子ども診と略す)の3か所に依頼している。

実習の目標は、各施設の特色を考慮して次のように定めている。

#### ① 愛知県総合保健センター

ア. 保健センターの組織、運営の実際を理解し、各職種の機能、役割を認識する。

イ. 成人総合健診, 体力管理, 精神衛生相談業務等が, 身体的, 精神的健康の保持増進に果たす役割を認識する。

ウ. 視力障害, 聴力言語障害等の精密検査および機能訓練の実際を知り, 学校保健活動との関連について学ぶ。

② 愛知県職員病院およびみなみ子ども診療所

ア. 病院(診療所)の組織, 運営の実際を理解し, 各職種の機能, 役割を認識する。

イ. 臨床場面で, 看護業務がどのように実践されているかを理解する。

ウ. 患者の受容, 臨床診断の過程および保健指導について学ぶ。

(3) 実習の時期・期間及び日程

3年次の後期末(2月中旬から3月末まで)に5週間を設定しており, 学生60名が5グループに分かれて5週間のローテーションを組む。学生ひとりあたりの実日数を各科(部門)ごとに示すと表1の通り22.5日(4週間)である。1グループ(12名)の5週間の日程は図1の通りである。各科(部門)ではさらに詳細な日程を定めて学生を配当している。聴力音声言語診断部の例を図2に示す。

(4) 指導体制

① 専任教官による指導

本課程の専任教官は12名であり, そのうち3~5名が臨床実習委員として計画・運営等を中心的に担当している。実習施設の指導者との打ち合わせを数回行い, 各科・各部門で学生に配布すべき資料(例年約15種類)を確認して, 大学で印刷する。学内における学生への事前指導としては3年次の11月に実習日程等を, 次いで1月~2月に実習要項にもとづいて実習内容や実習の心得等を詳しく説明している。

実習期間中は実習委員以外の教官も, 毎日交代で施設に出向き, 実習開始前に学生全員が集合して行う朝の打ち合わせに出席する。この時に学生の出席状況・健康状態の把握を行いその都度必要事項を指導している。また, 実習時間中は実習生控室に待機して, 施設と大学との連絡および学生指導にあたっている。さらに, 実習期間の半ばには, 実習委員が臨床指導者の点検済の記録を提出

させ, その時点で指導すべき事項を把握し, 学生全員に周知させている。

② 実習施設の職員による指導

実習施設は医療の場であり, 受診者のために種々の医療関係者が協力して診断・治療・看護・検査等にあたっている。実習期間中, 実習生はこの診療活動の流れの中に入り見学や実習を行いその場の臨床指導者(医師・看護婦・検査技師等)により説明や指導が行われている。なお事前指導としては, 実習開始1か月前に実習委員が学生を引率して実習施設におもむき, 各科(部門)の職員から指導を受ける。内容は施設の特徴, 各科(部門)の業務概要, 実習の諸注意, 指導責任者の紹介などである。

(5) 実習記録および評価

学生は毎日実習記録を書き, 臨床指導者に提出し, 朱筆指導を受ける。実習終了後学生にレポート(テーマは専任教官が提示する)と実習記録綴りを提出させ, 出席状況等と総合して実習委員が評価する。さらに, 実習委員は, 4年次の4月初旬に実習についての反省および各自の実習成果を発表させ, 事後指導にあたっている。

4. 実習内容についての調査結果と考察

昭和61年度3年次に臨床実習を行った学生を対象に, 4年次の昭和62年5月中旬に臨床実習に関する調査を行った。

(1) 学生が経験した疾患

表2は学生が実習中に経験した疾患名を施設別にまとめたものである。自由記述で記入させたため, 記入もれもあると思われるが多種類の疾患が挙げられており, おおよその傾向は把握できると考える。ちなみに, 秋山<sup>4)</sup>の小児科における調査結果とほぼ類似した結果となっている。実習全体を通して半数以上の学生が経験したとする疾患は胃癌, 喘息, 白血病, 血友病, 癲癇, 脳性麻痺, 糖尿病, 痛風, 白癬, 弱視, 緑内障, 紛瘤, 中耳炎, 難聴, 構音障害, 齶蝕, かぜ症候群, ダウン症候群の18種類であった。施設別では職員病院が最も疾患の種類が多く, また血液疾患を専門としているので一般の病院ではあまり経験出来ない疾患を学んでいる。センターでは視力診断部で小児

表1 各施設の実習日数

実習施設	部 門 ・ 科	日 数
総合保健 センター	総 合 部 門 (1階)	1 日
	成 人 病 診 断 部 門 (人間ドック・2階)	1 日
	同 上 (精密検査・3階)	1.5日
	電子計算部門 ・ 化学検査室 (4階)	1 日
	聴力音声言語診断部 (5階)	3 日
	視 力 診 断 部 (6階)	3 日
	精 神 衛 生 セ ン ター部 (8階)	2.5日
	講 義	1 日
	小 計	14 日
職員病院	内 科 (外 来)	1.5日
	外 科 (外 来)	1.5日
	眼 科 (外 来)	0.5日
	歯 科 (外 来)	1 日
	病 室	1.5日
	講 義	0.5日
		小 計
みなみ子ども 診療所	小児科外来・神経外来・呼吸器外来・アレルギー外来・療育	1 日
	事 前 指 導	1 日
	総 計	22.5日

氏名	第 1 週					第 2 週					第 3 週					第 4 週					第 5 週										
	2月23日	24日	25日	26日	27日	28日	3月2日	3日	4日	5日	6日	7日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	16日	17日	18日	19日	20日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	30日	
A (12名)	内	外	歯	歯											成人(3)	成人(2)	精神	精神					病								
	外	内	内	歯	外														聴		聴				視		成人(1)			視	
	耳	外	内	外	外																病							成人(4)			
	外	歯	耳	内																力		力				力		視			力

(昭和62年 2月23日～ 3月30日)

○ 総合保健センター

- 成人(1)…成人病診断部 (1階) 聴 力…聴力音声言語診断部
- 成人(2)… ” (2階) 視 力…視力診断部
- 成人(3)… ” (3階) 精 神…精神衛生センター
- 成人(4)… ” (4階)

○ 職員病院

- 内…内 科 講…講 義
- 外…外 科 病…病 室
- 眼…眼 科 耳…耳鼻咽喉科
- 歯…歯 科

○ みなみ子ども診療所 (小児科)

図1 臨床実習日程例

曜日 実習生 時刻	月												水												木											
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
9:00	研修についての諸注意、ガイダンス ⑬												<見学>生育歴 ⑥				<見学>聴能訓練 ⑭		<見学>言語検査 ⑮		<見学>聴能訓練 ⑭		<見学>言語検査 ⑮		<見学>生育歴 ⑥											
10:00	<講義>耳鼻咽喉科学と学校保健 ⑭												<見学>言語検査 ⑮				<見学>聴力検査 ⑯						<見学>言語検査 ⑮				<見学>聴力検査 ⑯									
11:00	<見学> 診断室 ⑭												<見学> 診断室 ⑭				<見学>聴力検査 ⑯		<見学>聴能訓練 ⑭		<見学>聴力検査 ⑯		<見学>聴能訓練 ⑭		<見学> 診断室 ⑭											
12:00	昼食												昼食												昼食											
13:00	<見学> ABR ⑮												<講義>聴力検査法と補聴器について ⑬												<実習> 聴力検査											
14:00	<見学>言語訓練																																			
15:00													<講義>構音障害と吃音について ⑬												①											
16:00	⑨												⑩												⑪											

○内の数字は室番号を示す

図2 聴力音声言語診断部実習時間表

の弱視や斜視と緑内障、聴力音声言語診断部では難聴や構音障害の診断・訓練・指導の実際にも触れ、児童に密着した経験が来ている。精神衛生センター部では登校拒否や自閉症など事例に即して学習している。また、成人病診断部門では教職員の健康管理に必要な成人病の知識も得ている。さらに、子ども診の実習は、癲癇・脳性麻痺などの神経疾患、気管支喘息、小児の皮膚疾患、感染性疾患、新生児期の異常・疾患など小児の疾患や発育発達を学ぶ場となっている。現職の養護教諭に期待される活動の第一に外傷の救急処置が挙げられるが<sup>5)</sup>、現状の実習では外傷の事例が少ないのが惜まれるところである。救命救急の実習に関しては別の機会を検討することも必要であろう。

(2) 学生が経験した看護・処置等

表3は職員病院で学生が経験した看護や処置をみたものであり、資料1は病室の実習の一日の概略を示したものである。看護婦養成コースの学生と異なって、医学・看護学の知識や看護技術を学ぶ時間数の少ない本課程の学生が実際に患者を援助できる内容はわずかではあるが、色々経験していることがわかる。各種の患者への援助は保健室での救急看護に役立てることができるし、診察・検査の過程を見学することは児童生徒の異常の有

無を発見・判断する時や受診を勧める際の参考になる。手術の見学は現代医学の先端技術を知る貴重な機会でもあり、また、出血を一度でも見ておくことにより恐怖感が薄れ学校での救急処置の際に冷静に行動することができるであろう。病床の整備や消毒を学んでいることは保健室の整備や清潔の保持につながる。さらに、各科で行われている指導・相談は児童生徒や教職員の保健指導に直接役立てることができる。

今回の調査で、死に対する貴重な経験ができた学生が少数ではあるがみられた。臨床実習の場合、全ての学生に平等に実習経験をさせることは不可能であり、個人により差が大きくなるのが特徴でもある。従って、それぞれ見学・実習できた体験を実習後に話し合っただけで交流させることが大切である。今後さらにそのような機会を充実させる必要があろう。

(3) 自由記述にみる学生の意見

実習により得られたこととして学生が最も多く記述していたことは「疾患の知識を深めることができた」、「疾病の知識をより持つことができた」、「新たな知識を広げることができた」であった。さらに大学での講義が手薄な「眼科、耳鼻科について理解、見学することができた」との記述もみ

られた。これらのことから実習の意義の再確認がなされる一方、大学の時間数の関係で不十分な臨床医学の知識の習得も実習の場で補われていることがわかる。

具体的な内容としては「実際の疾病の診察を見学して（直接患者を見たり、医師の治療場面を見たりして）、その処置の仕方、患者への対応の仕方を学ぶことができた」、「患者や受診者に対しても直接、間接に接することができた」、また「患者と医師、看護婦との関わり方が保健室で子どもと関わっていく上で勉強になった」などと養護教諭の活動と関連づけた意見もみられた。

「普段遭遇することのない検査場面、手術、医療機械について学ぶことができた」ことを「貴重な体験をした」と受けとめている学生も多くみられた。実習内容の項でも前述したように手術見学は、学生にとって「有意義であり」、「とても貴重な経験」となり「印象に残る」ことであったようで、手術日に実習があたり手術の見学が出来なかった学生は「経験したかった」と残念だった思いを述べている。

「医療に携わる者に要求される真剣な態度、正確さ、迅速さ」や「病気を持つ人々の健康を望む心」などについて気付いて「人と人との接し方」を考えた学生もいた。また、「身近にはあまりいなくて知らずにいることの多い癌や白血病などの不治の病に冒された人と接することが出来たのは貴重な体験だった」との記述もみられた。患者の死に直面した学生は「実習を終えて暫くの間、寂しくて寂しくて堪らなかった。生命のはかなさを思い知らされたから。……………精神的な部分で何か変化があったことを感じている。」と述べ戸惑いつつも、死を厳粛に受けとめている様子がかがわれた。これらのことは、大学での講義や事前指導の際に不治の病や死に対する心構えについても触れる必要性を示している。

実習時期については3年次の春休みという他の課程の学生が休みである時に1か月間の実習を行うため、割り切れなさを感じている学生の意見も散見された。白井<sup>6)</sup>の昭和60年2月の実習前の調査によれば、臨床実習をあまりやりたくない理由として実習時期の不適當を挙げた学生が圧倒的に

多かったことから、学生が不満を持っていることが推察できる。しかし、大学全体のカリキュラムからいって実習時期の変更は困難なので、当面は学生に実習の意義を十分指導することが必要であろう。

## 5. 今後の課題

本課程の学生の本学志望動機は他の課程の学生と同様であり、教育に関する関心が高いといえる。<sup>7)</sup>一方、養護教諭は教諭とは異なって保健医療チームの一員としての側面を持っているにもかかわらず、本課程の学生のこの面に関する関心は必ずしも高いとはいえない。そのことが臨床実習に対する意欲にも少なからず影響していると思われる。このような学生の意識を変えるべく、従来から各教官が専門科目の教育を通じて努力をしてきた。

今回の調査結果は関連科目の中で臨床実習の内容を意識して指導するのに役立つと思われる。さらに事前指導において、具体的に活用して学生の臨床実習に対する意識をたかめ目的を明確にさせたい。実習で学んだことをより確実に自分のものにするためには、各自の経験の交流とともに、学生自らが経験と知識の統合をはかれるような専任教官の働きかけが必要であろう。日常の学生指導において積極的な勉学態度を育成することが学外の実習に意欲的に取り組む姿勢を生み出すことにつながるとと思われる。

## 参考文献

- 1) 村島幸代：病院実習から見た養護コース学生の実習状況，神奈川県立衛生短期大学紀要，Vol. 12，p. 57～63，1979.
- 2) 秋山昭代：養護教諭養成課程における臨床実習（第1報），千葉大学教育学部研究紀要，第29巻第2部，p. 301～309，1980.
- 3) 森田穰（国立養護教諭養成所協会）：養護教諭の職務内容について，健康教室，Vol. 24，No.12，p. 92～93，1973.
- 4) 前掲論文2)
- 5) 宇留野光子：保護者の養護教諭観，養護教諭の職務研究 第2集，東山書房，p. 183～190，1967.

表 2-1 臨床実習中に学生が経験した疾患 (のべ人数)

疾患名	機関名	職員病院	センター	子ども診	疾患名	機関名	職員病院	センター	子ども診	
消化器疾患	舌癌	7		2	鉄欠乏性貧血		14	4	1	
	食道炎	1			再生不良貧血		14			
	食道静脈瘤	1			真正多血症・高脂血症		9	4		
	食道癌		1		高尿酸血症		2			
	胃びらん		1		慢性・急性・骨髄性白血病		43			
	胃腸炎	1	1		ATL (成人T細胞白血病)		2			
	胃ポリープ	2	2		血小板減少性紫斑病 (ITP)		15			
	胃・十二指腸潰瘍	12	4		周期性血小板増加症		1			
	胃癌	50	3		血友病		36			
	十二指腸穿孔	3			AIDS		8			
	十二指腸癌		1		敗血症		1			
	肝機能障害	1	2		伝染性単核症		2			
	B型・ウイルス性・慢性肝炎	19			泌尿・性 殖器 疾患	腎炎		3		1
	肝硬変	2				腎結石症		1		
	肝癌癌	2	1			腎不全		1		
	胆石症	12	4			腎癌		1		
	胆嚢癌		1			膀胱炎		3		
	慢性脾臓炎	2	1			膀胱結石		1		
	虫垂炎	12				膀胱癌			1	
	ヘルニア・鼠径部ヘルニア	8				乳癌		7		
腸閉塞	3		子宮筋腫			1	7			
結腸ポリープ	2		子宮癌			1				
大腸癌	14	1	神経 疾患	熱性痙攣				4		
直腸癌	16	1		癲癇・点状癲癇				35		
痔核	10			脳炎				1		
食中毒	2			脳性麻痺				39		
呼吸器疾患	咽頭炎・扁桃炎	3		言語障害					1	
	喉頭癌	2		脳水腫						
	急性・慢性気管支炎	3		内・分 代 泌 疾 患	糖尿病・糖代謝異常	28	11			
	気管支喘息・小児喘息	5			甲状腺機能亢進症	2		1		
	肺炎		1		肥満					
	肺結核	4	1	運 動 器 疾 患	変形性関節症・関節症	6				
肺癌		1	関節炎		1					
循環器疾患	フアロー四徴候		2		骨粗鬆症	5				
	心室中隔欠損		1		五十肩	8				
	不整脈・発作性頻脈	2			リュウマチ	9				
	心房細動	1			上腕骨内顆炎・上顆炎	7				
	心臓弁膜症	2	4		多発性骨髄腫・骨髄腫	4				
	虚血性心疾患	7	3		腰痛症	1				
	狭心症	14	2		テニス肘	7				
	心筋梗塞	13	3		むちうち症	1				
	心筋炎・突発性心筋症	5			脊椎すべり症	3				
	心不全	2	1		オスグートシュラッテル氏病	2				
	川崎病	1			Tietze氏病	1				
	動脈硬化	1			痛風	40				
	高血圧症	17								
	静脈瘤	1								
	リンパ管炎	2								
バージャー氏病	4									
心臓病	2									
起立性調節障害	2									

Tietze氏病: 栄養障害性肋骨軟骨萎縮症

表2-2 臨床実習中に学生が経験した疾患（のべ人数）

疾患名	機関名	職員病院	センター	子ども診	疾患名	機関名	職員病院	センター	子ども診	
皮膚疾患	白癬	2			アレルギー	蕁麻疹	1			
	鶏眼（魚の目）	6				食物アレルギー			4	
	ひょう疽	2				花粉アレルギー		1		
	皰瘡	1				アレルギー			1	
	アトピー性皮膚炎			2		かぜ症候群・インフルエンザ	5		2	
	アレルギー性皮膚疾患			7		麻疹			2	
	突発性発疹			1		風疹			3	
	帯状疱疹	2				水痘	1			
	伝染性軟属腫			2		伝染性紅斑			3	
	粉瘤（アテローム）	2				ヘルペス	5			
眼疾患	急性結膜炎	3			精神疾患	うつ病・老人性うつ病	4			
	アレルギー性結膜炎	2				ヒステリー	1			
	結膜下出血	2				登校拒否		8		
	流行性角結膜炎	2				精神発達遅滞			8	
	近視・屈折異常		2	3		精神薄弱		1		
	乱視		4			神経症		1		
	遠視		1	0		怠学		1		
	老眼		1			失語症		1		
	弱視	1	5	5		自閉症	1			
	斜視	8	5	9		自律神経不安定症	1			
	白内障	5	1	3		アルコール中毒症	1			
	緑内障	1	3	5		外傷	切創	6		
	眼瞼下垂	5					挫傷	2		
	霰粒腫	3					打撲	2		
	糖尿病性網膜症	1					火傷	5		
	網膜色素変性症	2					捻挫	6		
	眼毛膜炎	1					顎関節脱臼	1		
	眼底骨折	1				出生前・新生児疾患	舌小帯短縮症		1	
翼状片	3			口唇・口蓋裂			4			
色覚異常	1	9		ダウン症候群	8		6	1		
				小頭症				6		
				水頭症				1		
				無眼症				10		
				驚口瘡				2		
				その他	パーキンソン氏病		1			
歯疾患	歯髄炎	2								
	着色歯	2								
	歯周炎・若年性歯周炎	9								
	歯肉炎	5								
	歯槽膿漏	9								

表 3 職員病院で学生が経験(見学または実習)した看護や処置など

項目	項目	項目
1. 病床の整備 ・ベッドメーカーキング ・シーツ交換 ・病室清掃 ・病室準備 ・病室移動 ・環境整備 ・空気清浄器の清掃	8. 衛生材料の作成 ・綿球 ・ガーゼ 9. 消毒 ・消毒・滅菌法(器具の消毒) ・無菌操作 ・注射器の洗浄 ・体温計の消毒	・血友病患者の出血時の止血 ・試験管のラベルはり ・検査票のはりつけ 13. 手術 ・外科手術の見学(十二指腸穿孔、胃癌、S状結腸癌、虫垂炎、鼠蹊ヘルニア、ポリープ) ・眼科手術の見学(緑内障、眼瞼下垂、斜視) ・歯科手術の見学(抜歯等) ・手術の準備・かたづけ ・患者の運搬 ・術前の剃毛
2. バイタルサインの測定 ・血圧測定 ・体温測定 ・脈拍測定	10. 記録 ・病床日誌やカルテの整理・記入	14. 予防接種 ・破傷風
3. 食事の世話 ・配膳	11. 連絡等 ・申し送り ・ミーティング	15. 健康診断 ・身長・体重・胸囲 ・色覚検査 ・視力検査 ・聴力検査
4. 身体の清潔 ・全身清拭 ・入浴 ・足浴 ・洗髪	12. 回診・診察・検査・処置等 ・聴診・打診・腹部叩診 ・心電図・心電図の整理 ・心音図・心エコー ・肺機能測定 ・血糖値検査の補助 ・血小板検査 ・アレルギーテスト ・内視鏡検査 ・胃カメラ ・視野測定 ・矯正視力の測定 ・眼底撮影 ・ABR(聴性脳幹反応)検査 ・足背動脈の触診 ・採血 ・瀉血 ・骨髄(マルク)の穿刺と顕微鏡観察 ・自己リンパ移植 ・切開による排膿 ・ガーゼ交換・包帯 ・蓄尿の観察 ・静脈カテーテルの挿入 ・経管栄養(CVA, IVH)	16. 指導・相談 ・栄養指導 ・健康相談 ・聴能訓練 ・歯科ブラッシング指導 ・入院患者へのオリエンテーション
5. 電法 ・温湿布 ・氷枕		17. その他 ・医師による死の宣告 ・死者に対する処置 ・死後の送り出し
6. 患者の世話 ・鬱病患者と散歩 ・喘息発作時の介助(背中たたき) ・患者・患児との対話 ・患者に対する受容の態度 ・ICU患者の監視 ・車椅子の散歩・移送		
7. 与薬 ・与薬の準備(薬の分類) ・与薬の補助(薬の配布) ・注射器の洗浄 ・注射・点滴 ・吸入 ・薬剤の塗布		

資料 1 病室の実習の概略

8:50	申し送り
∫	
9:30	外科と内科の回診の見学
∫	
11:30	医師からの指導(質疑・応答)
∫	
12:00	昼食
∫	
13:00	看護婦1人に1人の学生が付き指導を受けながら看護業務の一部を実習する。途中、15:00頃に学生が2人1組になり、担当の病室の患者の検温と血圧の測定を行う。
∫	
16:30	申し送り・カンファレンス
∫	
17:00	実習終了

- 6) 白井みどり：養護における看護の一考察，  
愛知教育大学大学院修士論文（未発表），  
1986.
- 7) 岩井勇児：愛知教育大学学生の進路意識 VI，  
愛知教育大学研究報告第36輯（教育科学），  
p.97～111，1987.